

小学生の保健だより活用の実態に関する調査

福田珠巳*・古池雄治**

（2021年8月31日受理）

A survey of the actual utilization of health news for elementary school students

Tamami FUKUDA* and Yuji KOIKE**

（Accepted August 31, 2021）

Abstract

Yogo teacher is a special licensed educator who supports children's growth and development through health education. To elucidate the actual utilization of health news, that is created and handed out monthly by *Yogo* teacher for students and their caregivers, we conducted questionnaire research that targeted elementary school students (n=91). As a result, more than half of the students read and found out to be fun and useful of health news, however, almost subjects remembered little about the contents. To improve such drawbacks, we should work out the eventful health contents at various times and in a different manner.

はじめに

保健だよりは、養護教諭の職務5項目¹⁾（保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営および保健組織活動）の中で保健教育（指導）に位置付けられている²⁾。その主な目的は、紙面を通して保健教育を行うこと、児童生徒の保健に関する情報を伝達すること、保健室と児童生徒・保護者のコミュニケーションを図ること、である³⁾。保健だよりは法的に発行の義務や書式等は定められていないが、学校保健の目標を達成するための手段であり啓発活動である⁴⁾ことから、健康に関する知識の伝達や健康への問題意識・関心を高めるためにほとんどの養護教諭が保健だよりを作成している⁵⁾。これまで、養護教諭を対象とした保健だよりに関する調査は行われている²⁾ものの、児童生徒を対象とした実態調査はほとんどなされていない。2018年に橋口ら⁶⁾が中学生を対象に保健

*茨城大学大学院教育学研究科（〒310-8512 水戸市文京2-1-1；Graduate School of Education, Ibaraki University, Mito 310-8512 Japan）.

**茨城大学教育学部（〒310-8512 水戸市文京2-1-1；College of Education, Ibaraki University, Mito 310-8512 Japan）.

だよりに関する調査を行った結果、8割以上の生徒が保健だよりは役に立つと感じていることが明らかとなった。しかし、橋口らは時代や実態に応じた内容の精選が必要であることを指摘している。

本研究では、小学生の保健だより活用の実態を明らかにするために質問紙調査を実施し、先行研究と比較しながら考察し、より有効な保健だより作成の一助としたい。

方 法

水戸市立F小学校の2年生、4年生、6年生の計91名（調査日の出席者）を対象とした質問紙調査を行った。調査期間は2020年10月13日～20日で、各学級で担任が児童に調査の趣旨と内容を説明したのち、質問紙調査を実施しその場で回収した。有効回答者数は91名（有効回答率100.0%）であった。

質問紙の内容は、①学年と性別、および保健だよりについて②読んでいるか、③どこを読んでいるか、④役に立つか、⑤興味のある内容か、⑥難しいか、⑦どのような内容をのせてほしいか、⑧おうちの人に見せているか、⑨おうちの人を読んでいると思うか、⑩内容をおうちの人と話し合うことがあるか、⑪今でも覚えている内容はあるか、知識の定着を確認するために⑫涙の量が減り目の表面が乾いてしまっている状態を何というか、⑬F小学校の視力検査では学年が上がるにつれてA判定が増えるかどうか、⑭希望や意見などの自由記述、の14項目であった。なお、⑦については小学校学習指導要領体育編の体育・健康に関する指導を参考にした6項目と自由記述の計7項目から2項目を選択する内容とした。⑫および⑬は調査日の約2週間前に配布された保健だより10月号の内容である。

倫理的配慮として、質問紙調査で得られたデータは研究以外の目的では使用しないこと、質問紙調査への協力は無記名、自由意志であることを質問紙に記載した。

結 果

1. 学年と性別

2年生27名、4年生34名、6年生30名で、性別は男子44名（48%）、女子47名（52%）であった。

2. 保健だよりを読んでいるか

「保健だよりを読んでいますか」という質問に対し、2年生は27名中「いつも読む」5名19%、「時々読む」11名41%、「ほとんど読まない」1名3%、「全く読まない」10名37%であった。4年生は、34名中「いつも読む」9名26%、「時々読む」19名56%、「ほとんど読まない」5名15%、「全く読まない」1名3%であった。6年生は30名中「いつも読む」6名20%、「時々読む」16名53%、「ほとんど読まない」6名20%、「全く読まない」2名7%であった（図1）。

「保健だよりを読んでいる人は、どこを読んでいますか」という質問に対し、2年生は27名中「全部読む」6名22%、「おもしろそうなものだけ読む」8名30%、「見出しだけ読む」3名11%で、10名37%は無回答であった。4年生は34名中「全部読む」6名18%、「おもしろそうなものだけ読む」15名44%、「見出しだけ読む」4名12%で、2名6%は無回答であった。6年生は30名中「全

部読む」12名40%、「おもしろそうなものだけ読む」12名40%、「見出しだけ読む」5名17%で、1名3%は無回答であった（図2）。

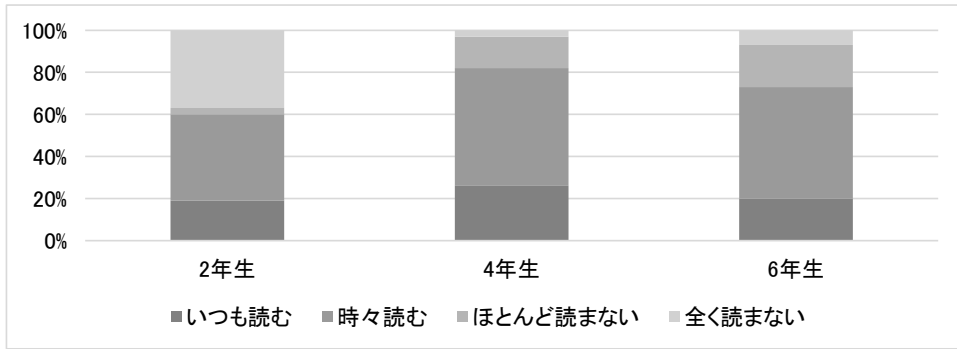


図1 「保健だよりを読んでいますか」

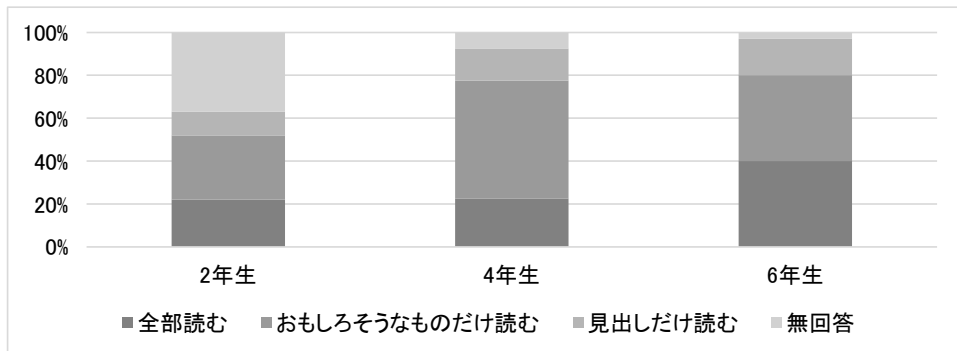


図2 「保健だよりを読んでいる人は、どこを読んでいますか」

3. 保健だよりの内容について

「保健だよりは役に立ちますか」という質問に対し、2年生は27名中「役に立つ」11名41%、「どちらかといえば役に立つ」6名22%で、10名37%は無回答であった。4年生は34名中「役に立つ」9名26%、「どちらかといえば役に立つ」17名50%、「どちらかといえば役に立たない」7名21%、「役に立たない」1名3%であった。6年生は30名中「役に立つ」9名30%、「どちらかといえば役に立つ」15名50%、「どちらかといえば役に立たない」3名10%、「役に立たない」3名10%であった（図3）。

「保健だよりは興味のある内容ですか」という質問に対し、2年生は27名中「興味がある」12名44%、「どちらかといえば興味がある」4名15%、「どちらかといえば興味がない」1名4%で、10名37%は無回答であった。4年生は34名中「興味がある」10名29%、「どちらかといえば興味がある」14名41%、「どちらかといえば興味がない」7名21%、「興味がない」3名9%であった。

6年生は30名中「興味がある」7名23%、「どちらかといえば興味がある」12名40%、「どちらかといえば興味がない」8名27%、「興味がない」3名10%であった（図4）。

「保健だよりの内容は難しいですか」という質問に対し、2年生は27名中「難しい」5名19%、「どちらかといえば難しい」5名19%、「どちらかといえば難しくない」2名7%、「難しくない」6名22%で、9名33%は無回答であった。4年生は34名中「難しい」1名3%、「どちらかといえば難しい」7名21%、「どちらかといえば難しくない」10名29%、「難しくない」16名47%であった。6年生は、30名中「難しい」1名3%、「どちらかといえば難しい」3名10%、「どちらかといえば難しくない」12名40%、「難しくない」14名47%であった（図5）。

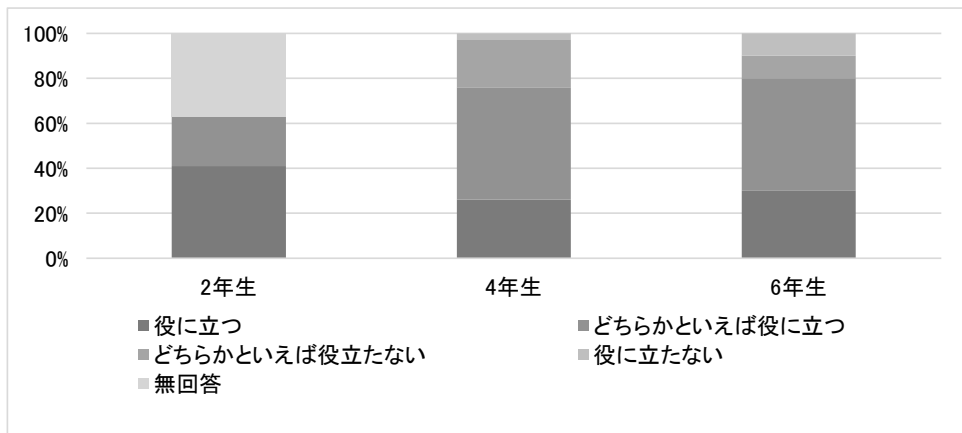


図3 「保健だよりの内容は役に立ちますか」

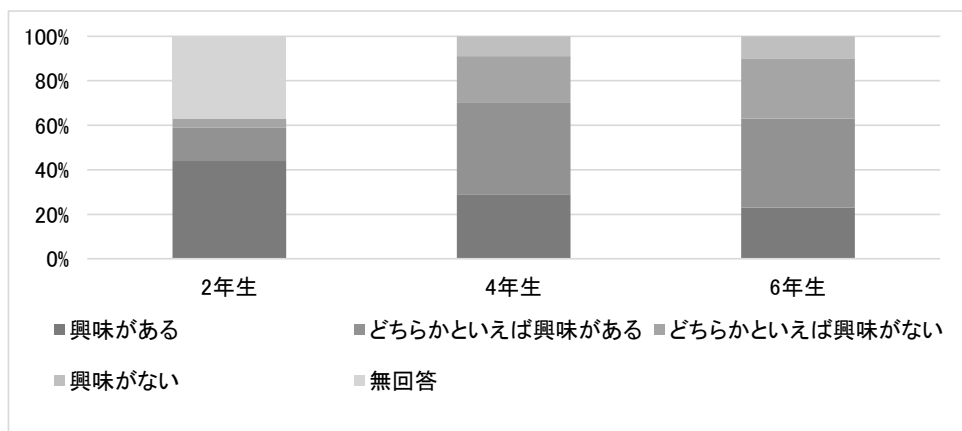


図4 「保健だよりの内容は興味のある内容ですか」

「保健だよりにどのような内容をのせてほしいですか」という質問に対し、2年生の男子は「病気の予防について」33%、「体の成長について」21%、「心の健康やストレスについて」21%であった。2年生の女子は「体の成長について」30%、「体のしくみについて」23%、「心の健康やストレスについて」20%であった。4年生の男子は「病気の予防について」26%、「心の健康やストレスについて」18%、「体の成長について」15%、「けがの防止や手当について」15%であった。4年生の女子は「病気の予防について」24%、「体のしくみについて」21%、「心の健康やストレスについて」18%であった。6年生の男子は「病気の予防について」33%、「体の成長について」27%、「けがの防止や手当について」20%、「心の健康やストレスについて」7%であった。6年生の女子は「心の健康やストレスについて」33%、「病気の予防について」27%、「けがの防止や手当について」23%、であった（図6）。

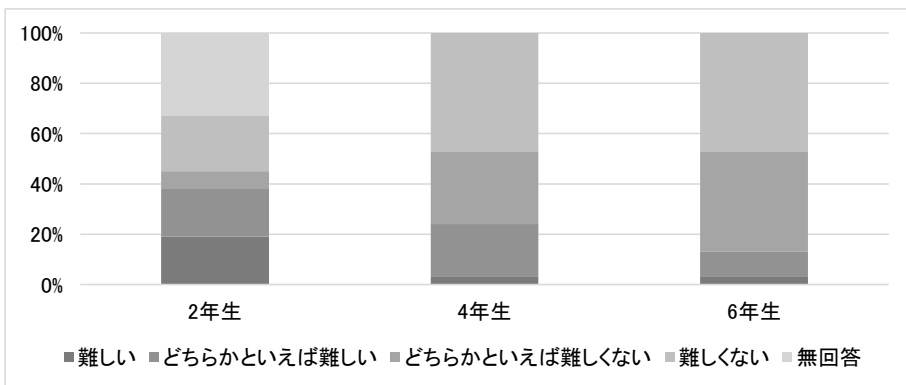


図5 「保健だよりの内容は難しいですか」

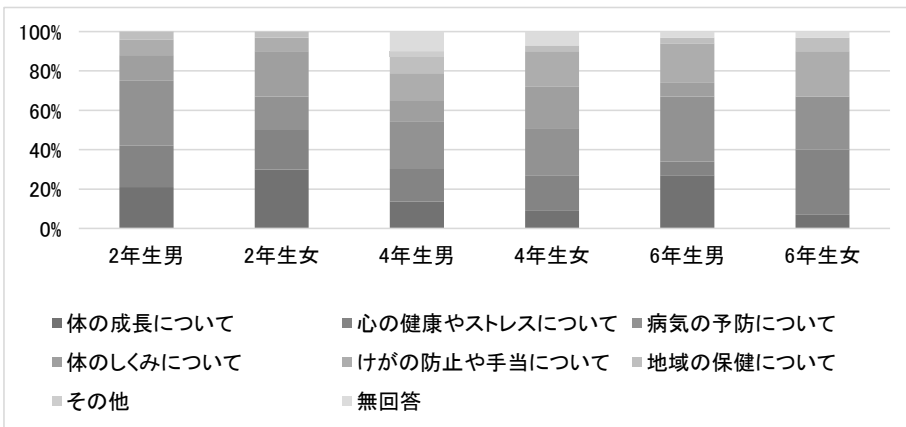


図6 「保健だよりにどのような内容をのせてほしいか」

「今でも覚えている保健だよりの内容はありますか」という質問に対し、2年生は1名が「目について」を、4年生は2名が「視力検査の結果」、「検査日のお知らせ」を、6年生は5名が「検査

日のお知らせ」、「検査の結果」、「視力について」、「鼻血の対応について」、「インフルエンザの予防について」、「けがの手当てについて」を挙げた。

4. 家庭での活用の実態について

「保健だよりをおうちの人に見せていますか」という質問に対し、2年生は27名中「見せている」25名92%、「時々見せている」1名4%であった。4年生は34名中「見せている」22名64%、「時々見せている」6名18%、「あまり見せていない」3名9%、「見せていない」3名9%であった。6年生は30名中「見せている」20名67%、「時々見せている」8名27%、「あまり見せていない」2名6%であった（図7）。

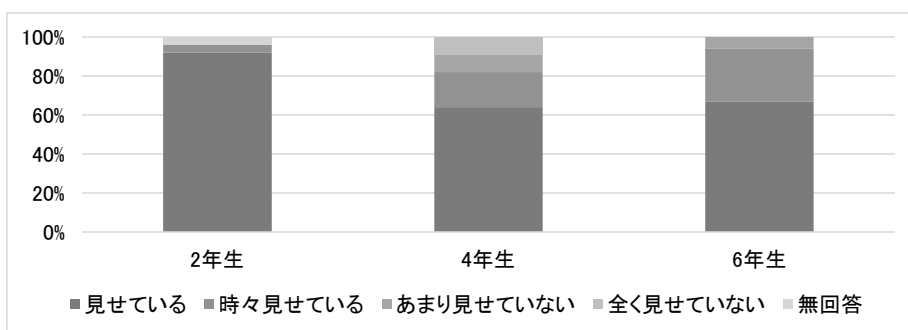


図7 「保健だよりをおうちの人に見せていますか」

「保健だよりをおうちの人には読んでいますか」という質問に対し、2年生は27名中「いつも読んでいる」19名70%、「時々読んでいる」8名30%であった。4年生は34名中「いつも読んでいる」11名32%、「時々読んでいる」16名47%、「ほとんど読んでいない」3名9%、「全く読んでいない」4名12%であった。6年生は30名中「いつも読んでいる」15名50%、「時々読んでいる」9名30%、「ほとんど読んでいない」5名17%、「全く読んでいない」1名3%であった（図8）。

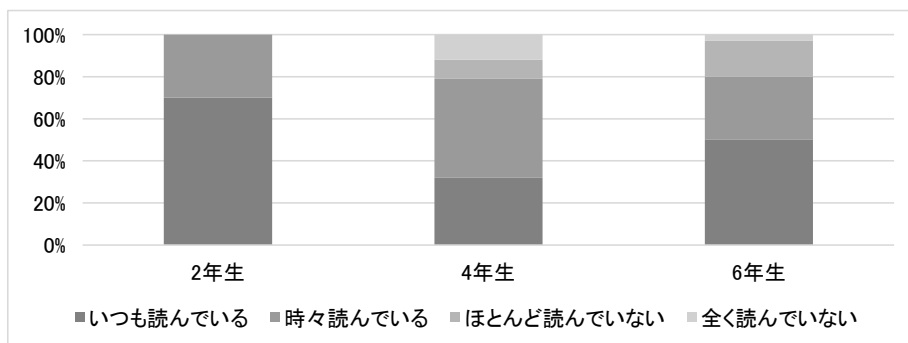


図8 「保健だよりをおうちの人には読んでいますか」

「保健だよりの内容をおうちの人と話し合うことがありますか」という質問に対し、2年生は27名中「いつも話し合う」7名26%、「時々話し合う」10名37%、「ほとんど話し合わない」6名22%、「全く話し合わない」4名15%であった。4年生は34名中「いつも話し合う」1名3%、「時々話し合う」14名41%、「ほとんど話し合わない」9名27%、「全く話し合わない」10名29%であった。6年生は30名中「いつも話し合う」3名10%、「時々話し合う」3名10%、「ほとんど話し合わない」14名47%、「全く話し合わない」12名40%であった（図9）。

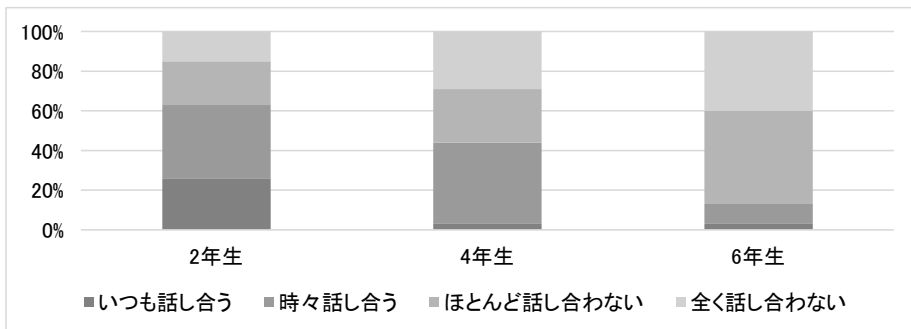


図9 「保健だよりの内容をおうちの人と話し合うことがありますか」

5. 保健だよりの内容の知識定着について

調査日の約2週間前に配布された保健だより10月号の内容で知識の定着を確認するために以下の2つの質問を行った。

「涙の量が減って目の表面が乾いてしまっている状態を何といいますか」という質問に対し、2年生は「ドライアイ（正解）」2名6%、「白内障」1名3%、「クールアイ」5名18%、「覚えていない」18名67%であった。4年生は「ドライアイ（正解）」19名56%、「白内障」2名6%、「クールアイ」3名9%、「覚えていない」10名29%であった。6年生は「ドライアイ（正解）」22名73%、「白内障」3名10%、「クールアイ」1名3%、「覚えていない」4名14%であった（図10）。

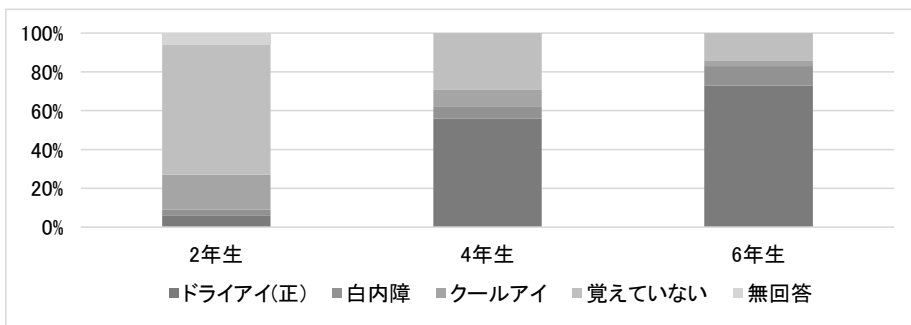


図10 「涙の量が減って目の表面が乾いてしまっている状態を何といいますか」

「F小学校の視力検査では、学年が上がるにつれてA判定が増えますか」という質問に対し、2年生は「減る（正解）」0名0%、「増える」2名8%、「どちらともいえない」3名12%、「覚えていない」19名72%であった。4年生は「減る（正解）」14名41%、「増える」3名9%、「どちらともいえない」5名15%、「覚えていない」12名35%であった。6年生は「減る（正解）」17名57%、「増える」3名10%、「どちらともいえない」1名3%、「覚えていない」9名30%であった（図11）。

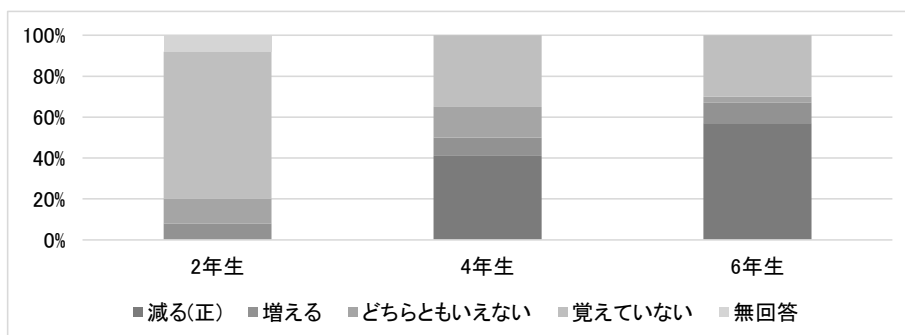


図11 「F小学校の視力検査では、学年が上がるにつれてA判定が増えますか」

考 察

1. 保健だよりを読んでいるかについて

2年生の約6割、4年生の約8割、6年生の約7割の児童が、保健だよりを「いつも」または「時々」読んでいた。2年生では、「全く読まない」と回答した児童が全体の3割以上を占め、学級内で保健だよりを読んでいる児童と読んでいない児童の差があることがわかった。

保健だよりのどの部分を読んでいるかについては、全学年で「おもしろそうなものだけ読む」が1番多い回答となった。本調査で知識の定着を確認するために用いた10月号では目に関する内容など、保健だよりはあらかじめ月ごとに中心となる内容を決めて発行している。その中でもグラフや絵を含む読みやすい内容、検診日程のお知らせや学校行事に関わる事柄など興味のある内容にのみ目を通して児童が多かった。学年が上がるにつれ「全部読む」と回答した児童の割合が増えたことから、内容が高学年向けになっていることが推測される。保健だよりの目的である紙面を通しての保健教育、情報伝達、コミュニケーション¹⁾を達成するためにも、児童全員が保健だよりを「いつも読んでいる」状態になるよう配布方法や内容を工夫することが必要であろう。

2. 保健だよりの内容について

2年生の約6割、4年生の約7割、6年生の約8割が、保健だよりの内容は役に立つと感じていた。保健だよりを読んでいるかについての質問と併せて考えると、保健だよりの内容が高学年にとってより理解しやすく役に立つ内容であることが推測される。また、保健だよりを全く読まないと回答した児童の割合と保健だよりの内容は役に立たないと回答した児童の割合がほとんど同数であった。このことから、保健だよりは自分にとって役に立たないと考えて読まない児童がいるのであろう。

また、2年生と6年生の約6割、4年生の約7割が、保健だよりの内容に興味があると回答した。さらに、興味がないと回答した児童の割合は読んでいないと回答した児童の割合より多く、内容として興味をひくものではないが、配布物であるため目を通して児童がいることが考えられる。保健だよりとして必要な保健や健康に関する内容の定着を図り、情報源として活用できるものにするためには、児童の興味関心の高い内容を精選して取り上げる必要があると考える。児童が保健だよりに掲載してほしいと考えている項目について調査を行ったところ、男女間および学年間に差が認められた。特に6年生では、男子で1番多かった「体の成長について」は女子では2番目に少なく、女子で1番多かった「心の健康やストレスについて」は男子では3番目に少なかった。また、2年生は「体の成長」や「体のしくみについて」が多く、高学年になるにつれて「けがの防止や手当について」や「病気の予防について」が多くなった。低学年は自分の身体を知ることに関心があり、学年が上がるにつれ健康を自己管理することに興味を持ち始める傾向があることが伺える。性別や学年での興味の違いにより全児童が興味をもつ内容を共通の保健だよりに取り入れることは難しいと考えられる。さらに、保健だよりに掲載してほしいその他の項目で「スポーツをしている人の健康的な食事について」という回答があり、習い事やスポーツなど校外での活動を踏まえ学校の実態に即した内容を精選する必要もある。

今でも覚えている保健だよりの内容があると回答した児童は1割以下で、極めて少なかった。覚えている内容として挙げられた項目は、質問紙調査を行う約2週間前に配布された保健だより10月号の内容と「検査日のお知らせ」であった。6年生では「鼻血の対応について」、「インフルエンザの予防について」、「けがの手当てについて」など、身近な傷病の予防や対応についての内容を覚えている児童がいた。このことから、保健だよりの内容を長期間記憶させておくことは困難だが、自分にとって身近に感じている内容や興味のある内容については記憶が残りやすいのではないかと考えられる。

3. 家庭での活用の実態について

保護者などに保健だよりをいつも見せている児童は、2年生では9割を超え、4年生と6年生で6割を超えているものの、学年が上がるにつれて見せていない割合は増えていた。「保健だよりをおうちの人は読んでいますか」については、2年生では全ての児童が「いつも読んでいる」、「時々読んでいる」と回答し、高学年になるにつれ「あまり読んでいない」、「全く読んでいない」と回答する児童の割合が増えていた。さらに、「保健だよりの内容をおうちの人と話し合うこと」がある児童は、2年生で約6割、4年生で約4割、6年生で約1割にとどまった。保健教育は家庭の協力も重要であり、家庭で保健だよりの内容について話し合うことは記憶の定着のために有効な手段であると考えられるが、6年生のほとんどが話し合うことがないと回答しており、家庭で話題にしやすい内容や構成にする必要がある。

4. 保健だよりの内容の定着について

本調査の約2週間前に配布した保健だよりの内容2項目（疾病および学校の実態）についての質問では、高学年になるにつれ正答率が高くなった。2年生では約7割の児童が「覚えていない」と回答し、知識の定着が図られていなかった。また、疾病についての質問の正答率は学校の実態についての質問より高かった。この結果から、高学年になると様々な情報源から健康に関する知識を得

ており健康に関する知識はあるものの、保健だよりを情報源として活用している児童は少なく健康に関する学校の実態はあまり興味がないと推測される。

5. より有効な保健だよりの作成について

本調査結果から、保健だよりをより有効なものにするために次の5項目を考案した。

1) 学年や性別により異なる内容を作成する。

学年により興味の対象や内容の理解度は異なるため、学年に応じて内容を変更することで多くの児童が興味をもつ保健だよりになると考える。学童期における行動学的性差について斎藤ら⁷⁾は、女子は国語や家庭科に興味を示し公共心や責任感および生活習慣に優れており、男子は積極性に優れ理科に関心が高いことを指摘している。彼らは、学校における掲示物は、女子はより非言語的コミュニケーションの理解に優れ多くの対象に視野を向ける、男子は「間違い探し・クイズ」など学習者の意欲的好奇心を刺激する、ように作成することが効果的であると報告した⁶⁾。このことから、女子には生活習慣に関する情報など幅広い内容、男子には情報を伝える方法として間違い探しやクイズなど、性別によって取り上げる内容や方法を精選した保健だよりを作成することがより効果的であると考えられる。

2) 家庭で話題にしやすい工夫する。

家庭での話題として取り上げられるような工夫としては、「おうちの人と話してみよう」といった具体的に話し合いを促すコーナーを作り、家庭で内容について話し合ったことに関するチェックシートを利用してもらうことが考えられる。例えば10月号では目の愛護デーをとりあげ、目に優しい生活習慣について家庭で話し合い、その項目について意識して生活できたかのチェックシートを添付するなどにより、家庭で生活習慣を見直す機会をつくることができるであろう。また、保健だよりを配布する際におうちの人と話し合ってみよう児童に声をかけ、参観日の学級集会やPTA総会の際などに家庭で保健だよりの内容について話し合い、健康について考える時間を設けるよう保護者に直接呼び掛けることも良いだろう。

3) 定着を図りたい内容は様式を変えて何度も取り上げる。

児童の特性により、文章が理解しやすい児童もいれば、絵や図の方が理解しやすい児童もいる。特に知識の定着を図りたい内容については、何度か取り上げ、文章とイラストを交互に掲載するなど、取り上げ方を工夫しながら掲載することも必要である。

4) 特別号を発行する。

定期または定期外として保健だより特別号の発行も、児童に興味を持たせることができるのではないだろうか。養護教諭以外の教員、保健委員会の児童、外部関係者等の協力を得て、保健委員会の児童の手書きのものや、学級担任や児童とかかわりの深い教員に依頼し養護教諭以外の教員から見た保健に関する内容を取り上げたものなどを特別号として発行することで、普段とは違う保健だよりの内容に興味をもつ児童が増えるのではないかと考える。

5) 配付の際に工夫する。

保健だよりを配付する際に、学級担任または養護教諭が直接保健だよりの内容について簡単に説明をすること²⁾も有効と考える。また、配付日には給食時の放送などで保健委員会の児童と協力して保健だよりの内容について取り上げることも良いだろう。

以上より、小学校低学年女子および小学校高学年男子に向けた保健だより（案）を作成したので、図 12 および 13 に示す。

ほけんだより 10月 2020年10月15日 〇〇小学校保健室

今月のほけん目ひょう：目を大切にしよう！

目をつかれをとる



目をダメージからまもる



見る力をたすける



目 たすけて サイン

<input type="checkbox"/> 目がショボショボする	<input type="checkbox"/> 首やかたがこりやすい
<input type="checkbox"/> まぶたがピクピクする	<input type="checkbox"/> 頭がいたい、おもい
<input type="checkbox"/> ぼやけて見える	<input type="checkbox"/> 目がかわる
<input type="checkbox"/> 光がまぶしい	<input type="checkbox"/> 目やにが出る
<input type="checkbox"/> 目が赤くなる	<input type="checkbox"/> なみだが出る

チェックがついた人は目がつかれています 大切な目をまもるため、今日からみんなで「目にやさしいンジャー」になろう！

<p>明るサイエロー 読書やべん強をするときは部屋を明るく！</p>	<p>みだしなみピンク 前がみは目にかからないようにととのえる！</p>	<p>やくそくレッド テレビやゲームは時間を決めてする！</p>
---	---	---

すいみんブルー
よふかしせず、早ね早おきをする！

えいようグリーン
バランスのいい食じをしっかりと食べる！

とつげき！先生インタビュー
今月は…△△教頭先生です！

Q.教頭先生がやっている目にやさしい行はどうありますか？

A.教頭先生はよく、木や山などみどりのけしきをながめます。色には、それぞれ「光の強さ」があり、みどりは1番、目にやさしい光の強さといわれています。遠くを見ると、目のきん肉が休み、リラックスできるので、できるだけ遠く（みどり）を見ています。

今月のはなまる
おうちや学校での生活をふりかえって、できたものにはなまるをつけよう！

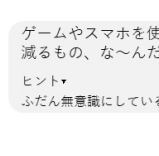
朝ごはんを毎日食べた	手あらいうがいをきちんとした
あいさつをした	おうちの人のお手つだいをした
けがをしなかつた	よくかんで食べた
互だちとながよくできた	かぜをひかなかつた

図 12 小学校低学年女子向け保健だより（案）

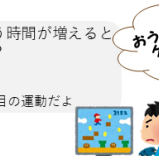
保健だより 10月 2020年10月15日 〇〇小学校保健室

今月の保健目標：目を大切にしよう！


目をつかれをとる



目をダメージからまもる



見る力をたすける



目 SOS チェック

<input type="checkbox"/> 目がショボショボする	<input type="checkbox"/> 首やかたがこりやすい
<input type="checkbox"/> まぶたがピクピクする	<input type="checkbox"/> 頭がいたい、重い
<input type="checkbox"/> ぼやけて見える	<input type="checkbox"/> 目がかわる
<input type="checkbox"/> 光がまぶしい	<input type="checkbox"/> 目やにが出る
<input type="checkbox"/> 目が赤くなる	<input type="checkbox"/> なみだが出る

チェックがついた人は目にやさしい生活をしよう！

かんきょう

- ・本を読んだり、勉強をしたりするときは部屋を明るく
- ・前がみは目にかからないように整える

しんぱん

- ・テレビやゲームは時間を決めて見る
- ・スマホやゲームを30分使ったら10分休けい
- ・栄養バランスよく食べる
- ・しっかりと寝る

とつげき！先生インタビュー
今月は…△△教頭先生です！

Q.教頭先生がやっている目にやさしい行動はありますか？



A.教頭先生はよく、木や山など緑の景色をながめます。色には、それぞれ「光の強さ」があり、緑は1番、目にやさしい光の強さといわれています。遠くを見ると、目の筋肉が休み、リラックスできるので、できるだけ遠く（自然（緑色））を見るようにしています。

保健委員会のまご
10月8日の委員会活動で、高学年向けの保健だよりの記事をつくりました！テーマは「インフルエンザ予防」保健委員会のみんなががんばってつくった記事を楽しみにしてください！保健だより11月号は、11月15日にみなさんにお届けします！

活動の様子の写真

ゲームやスマホを使う時間が増えると減るもの、な～んだ？

ヒント▶
ふだん無意識にしている目の運動だよ

正解は…まばたき

ゲームやテレビ、スマホの画面に集中していると、まばたきの回数が減ってしまい、目がかわるドライアイなどの病気になることがあります。また、長時間のテレビやゲーム、読書、勉強は遠くが見えにくくなる近視の原因になります。とどき遠くを見て、目を休ませてあげよう！

図 13 高学年男子向け保健だより（案）

小学校低学年女子向け保健だよりでは、1, 2年生で習う漢字のみで表記, キャラクターで興味をひき（図12左下）, 家庭科の内容を取り入れ（図12右上）, 家庭で話題にできるようにした（図12右中）。一方, 高学年男子向け保健だよりでは、4年生までに習う漢字で表記, 環境と行動にわけて記載（図13左下）, 興味を持ちやすいクイズ形式を取り入れ（図13右上）, 保健委員会での児童の活動の様子を載せた（図13右下）。

まとめ

本研究では、小学生の保健だより活用の実態が明らかにする目的で、F小学校に在籍する2年生、4年生、6年生計91名に対して質問紙調査を実施し、先行研究と比較しながらより有効な保健だより作成について考察した。研究の結果、より有効な保健だより作成の手立てとして以下5点を得た。すなわち、①学年や性別により異なる内容を作成する、②家庭で話題にしやすいよう工夫する、③定着を図りたい内容は様式を変えて何度も掲載する、④特別号を作成する、⑤配付の際に工夫する、である。

本研究の限界として、調査の対象が単一の小学校に在籍する児童のみであり、調査対象数が限られていることである。今後、多くの学校の保健だより活用についての実態を調査することで、さらなる保健だよりの有効な作成方法を考案することが期待できる。また、本研究では学年・性別により異なる保健だよりの作成を提案したが、その作成が煩雑になることや、ともすると性的差別につながる可能性も否定できず、検討が必要である。

謝辞

本研究にご協力いただいたF小学校の児童ならびに校長先生をはじめとする教職員の方々に心より感謝申し上げます。

注

- 1) 文部科学省（2011）教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_icsFiles/afieldfile/2013/10/02/1309933_01_1.pdf（2021年8月5日閲覧）。
- 2) 松田芳子・清田由貴・川崎史帆・味園あずさ・大島望美・河野彩・小泊千紘。2020。「養護教諭が作成する保健だよりに関する検討－養護教諭を対象とした実態調査を通して－」『熊本大学教育学部紀要』69, 159-165.
- 3) 鎌塚優子・林典子・鈴木恵子・下村淳子・井澤昌子。2016。「小学校における養護教諭の保健だより作成の実態」『静岡大学教育学部研究報告』66, 225-238.
- 4) 難波英子・中桐佐智子・津島ひろ江・松岡弘。1987。「保健だよりに関する実態調査」『学校保健研究』29, 543-549.
- 5) 中島節子・池田みずゝ・長谷川久江・早川維子・門川由紀江。2015。「高等学校における保健だよりに関する調査」『松本大学研究紀要』13, 73-79.

- 6) 橋口文香・御厨慶子・高木富士男. 2019. 「中学生の保健だよりに関する意識調査からの一考察」『九州女子大学紀要』55, 127-143.
- 7) 齊藤ふくみ・古池雄治・堀江直子・鈴木彩羅・松田芽生. 2018. 「小学校養護実習におけるウエルカムボード（掲示物）作成の効果と課題」『茨城大学教育実践研究』37, 225-231.

